

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

PNW（米国西海岸北部）出しの船腹は引き続きタイトな状況が続いています。また、業界再編やアライアンスの拡大などにより、特定の船社やサービスにブッキングが集中し始めています。このため、6月1日付で各船社からGRI（海上運賃一斉値上げ）の通知が出ています。

また、米国ではトラックへのEログ（ELECTRONIC LOG DATA）の設置が義務化され、1日の運転時間が11時間以内に制限されてから4か月が経過しました。この規制の影響と米国経済の好況により、米国内では輸送能力の不足に直面しています。規制が開始されるまでは、各港とサプライヤーの工場の間を1日に複数回搬送できていましたが、運行時間の制限および港の混雑によって、1日に1回しか搬送できない状況が散見されるようになりました。この影響で、港までの十分な輸送力が確保できず船積みが遅れるケースも増えています。

ビートパルプ

<米国産>

新穀の作付面積については、大きな影響を及ぼす要因は特になく概ね昨年並みと見ており、生産量についても特段の変動はないと考えられます。一部では低温や降雪の影響で播種がやや遅れている地域もありますが、現段階では懸念すべき状況とは言えません。

旧穀の米国産は10万トンを超える減産となった上、東海岸の柑橘類や西海岸のアーモンド殻が自然災害により被害を受けたこと、また新穀のアルファルファの相場も高値でスタートしていることなどから、米国内でのビートパルプへの引き合いは強まっています。

<中国の動向>

米国産の輸入解禁後、安定的に引き合いがあるようです。中国国内産のビートパルプの生産量よりも需要量は明らかに多いため、今後も輸入への需要は堅調、もしくは増加する傾向にあると思われます。

アルファルファ

ワシントン州

主産地コロンビアベースンでは、昨年同様、春季の気候が冷涼であったことから、南部での収穫作業は例年並みからやや遅い5月上旬頃からの開始を予定しています。

作付面積については昨年に比べ減少しています。昨年のチモシーが高値で推移したため、チモシーへ転作した圃場が増えたためと言われてしています。

現在2番刈りが進行中のPSW（米国西海岸南部）では産地価格が上昇しており、その影響でPNW（米国西海岸北部）においても相場は上昇すると考えられます。加えてワシントン州近郊の酪農家から引き合いも底堅く、産地相場を押し上げる要因の一つとなりそうです。



WA 産アルファルファ圃場写真（4/25撮影 コロンビアベースン中央部）

オレゴン州

クラマスフォールズでは灌漑水の利用を巡って様々な利害関係者の間で裁判が繰り返されており、結果、政府機関は当地の生産農家に対し、6月1日まで灌漑水の利用を制限すると発表したようです。背景には今冬の降雪不足が積雪量は例年の50%と言われており、3月13日にはオレゴン州知事からクラマス郡の干ばつ宣言を出しています。一方で、当地ではおよそ90%のアルファルファ生産農家の圃場は地下水を利用できるため、大きな問題にはならないと見込んでいます。また、いくつかの生産農家は作付面積を増やしているようです。

クリスマスバレーでは新穀の生育は、今のところ例年通りの状況で6月中旬ごろ刈り取りが開始される見込みです。

カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは2番刈の収穫が終盤を迎えており、早い圃場では5月上旬頃から3番刈りの収穫が開始される見込みです。1番刈りは一部雨当たりの被害が発生していますが、概ね良品が発生しています。2番刈りについては収穫期の天候に恵まれたため、高品質なものが多く発生しています。1番刈りはすでにサウジアラビアを中心に、一部中国も旺盛に買い付けを行っており、昨年と同時期と比較して産地価格は\$30~50/ST程上昇しています。

中東勢が当地から積極的に買付ける理由として、自国での農業用水の使用制限に加え、気候が自国と類似しているため品質も似たもの仕上がる点が挙げられます。

中国向けに関してはアルファルファの需要が変化しつつあります。これまでは価格優先で、緑目が強く見た目が良いものが好まれていましたが、近年では高成分なものを求めるケースが増えています。

現時点では、昨年に比べ大幅な価格の上昇を見せていますが、今後番手が進み生産量が増え、また各産地でも収穫が本格化していくことで、徐々に相場は軟化していくと考えられます。しかしながら、西海岸全体では昨年に比べ高値で推移していくことは避けられそうにはなく、引き続き注視が必要な状況と言えます。

カリフォルニア州中部から北部では1番刈が進行中です。作付面積は減少の見込みです。近年課題であった水不足については、今年は大きな懸念はなさそうです。

米国産チモシー

旧穀の産地在庫は2番刈の低級品を除いて、ほぼ成約済となっています。今後は新穀まで成約済みの在庫で需要を満たしながら、繰越在庫はほぼない状況で新穀へ移行することになりそうです。

新穀については、17年産の産地相場の高騰を背景に、作付面積は前年比10%程度増加しています。生育は順調に進んでおり、天候に大きな変動がなければ、例年並みの6月上旬頃から1番刈の収穫が開始される見込みです。作付面積が増加していることから収穫量も増え、高止まりしている産地相場についても、新穀の収穫が順調に推移すれば軟化していくことが期待されます。

日本および韓国からの需要は引き続き堅調ですが、徐々に適正な需給バランスに戻りつつあり、新穀に向けて産地および国内の需給動向を慎重に見極めていく必要があります。



2018年産チモシー圃場写真 (4/25 撮影 コロンビアベースン中央部)

カナダ産チモシー

日本および韓国からの需要は引き続き堅調であり、産地在庫はすべて成約済となっています。新穀については、南部レスブリッジ地区では17年産の作柄が良好で産地相場も高値で推移したことから、穀類からチモシーへの転作が進み、作付面積は17年産比+10%程度増える見込みです。中部クレモナ地区およびその他の産地については、作付面積は前年並みと言われています。今冬から今春にかけては例年並みの気候であったことから、収穫開始時期についても、現時点では例年通り7月中旬以降に開始されるものと予想されます。

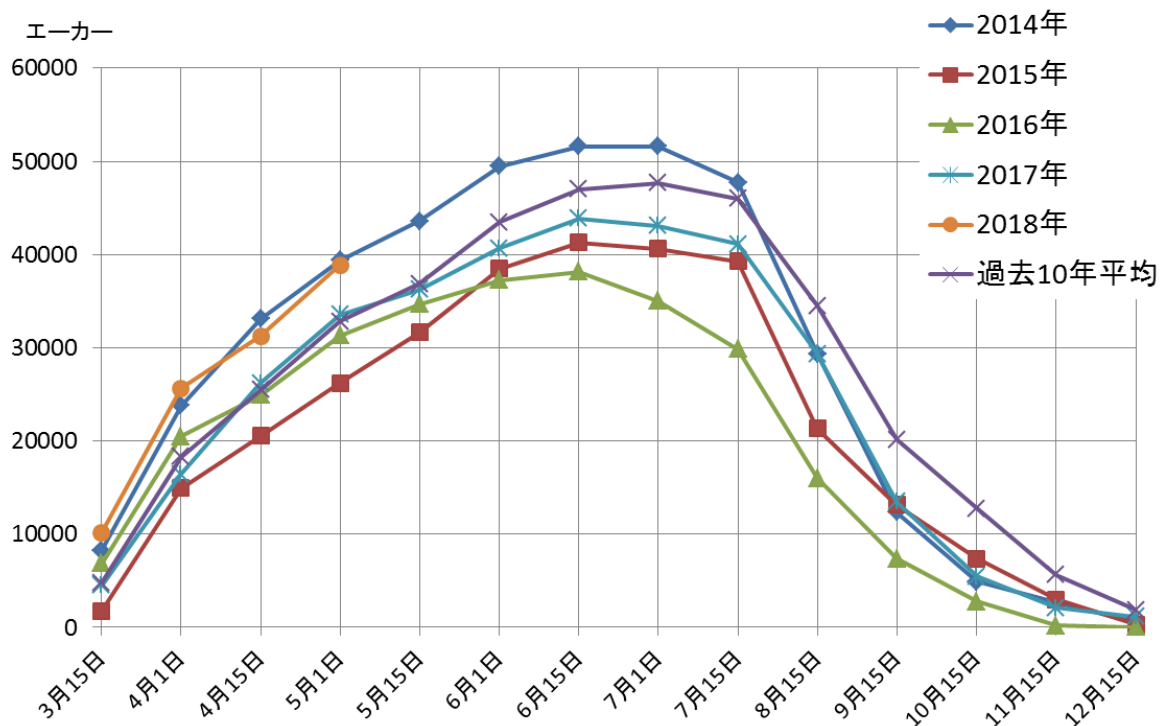
また、カナダ産チモシーの主要出荷港であるバンクーバー港出しについては、引き続き荷役作業の遅れなどにより、本船のスケジュールに遅れが発生しています。一時期に比べると状況は改善してきているものの、今後も日本への入船予定に遅れが発生する可能性があります。

スーダングラス

日本からのスーダン需要は引き続き堅調に推移しています。17年産の産地在庫については、上級品についてはすべて成約済となっており、中～低級品については若干の在庫があるといった状況です。

5月1日付のインペリアルバレーの作付面積は前年同月比116%となっています。小麦の相場が低迷していることに加え、冬場に野菜を生産している生産農家も相場が低迷していることから、早めにスーダンの作付けに切り替えていることが要因のよう

です。18年産スーダンの産地相場は、17年産の繰り越し在庫が少ない中での新穀スタート当初の買付けの動き、並びに17年産は高値で推移した米国産チモシーの新穀相場の動向に影響を受ける展開になりそうです。



インペリアルバレー スーダン作付面積（2018年5月1日時点）単位：エーカー

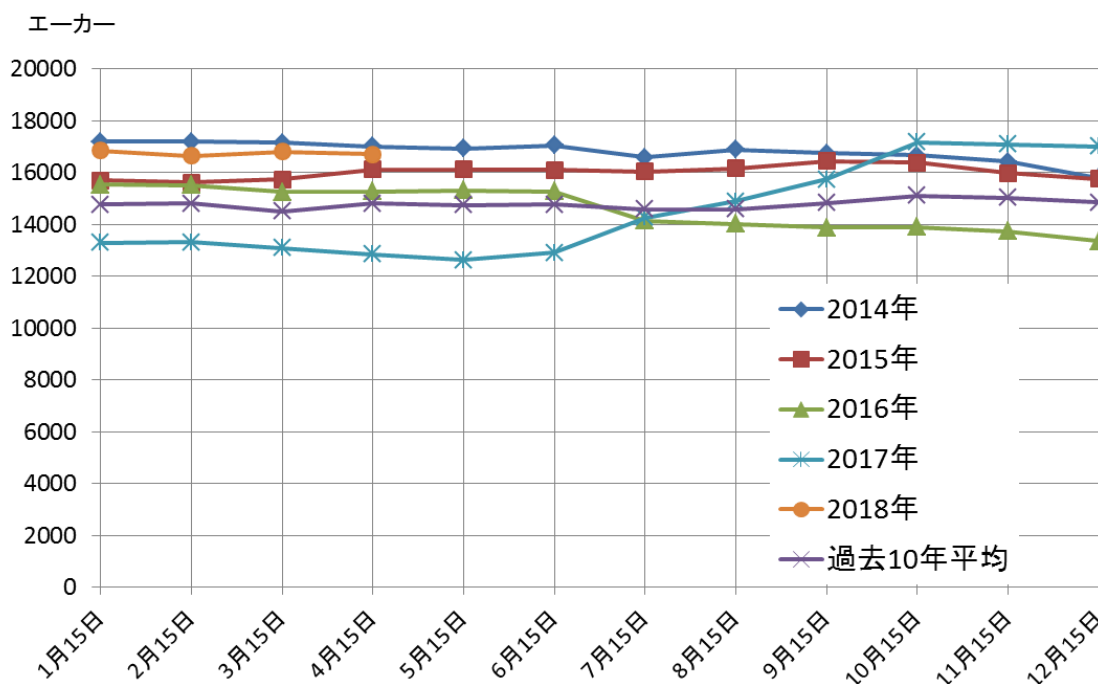
クレーングラス（クレーンは全酪連の登録商標です）

日本および韓国からの需要は引き続き堅調に推移しています。17年産の産地在庫についてはすべて成約済となっており、追加の買付は難しい状況です。

4月中旬時点の作付面積は前年同月比130%となっており、生産量が増える見込みで供給面の状況は好転すると期待されています。生育は順調で、すでに4月下旬から新穀の収穫作業が開始されています。

作付面積及び生産量が増加する見込みであることから、産地相場は軟化することが期待されましたが、懸念されていた通り、特に韓国からの新穀への引き合いが殺到しており、産地相場は昨年比より高値でスタートしています。一方で、未だ産地相場は完全に形成されているわけではなく、今後刈り取り番手が進むにつれ、供給力が増していくことで、徐々に産地相場は弱含んでくるものと多くのサプライヤーが予想して

います。今後は、例年以上に産地相場の動向に注意が必要となっていきます。



	1月15日	2月15日	3月15日	4月15日	5月15日	6月15日	7月15日	8月15日	9月15日	10月15日	11月15日	12月15日
2014年	17192	17192	17140	17005	16930	17038	16578	16873	16745	16659	16413	15786
2015年	15691	15605	15724	16111	16111	16086	16026	16152	16430	16372	15974	15746
2016年	15526	15501	15234	15255	15295	15262	14142	14002	13871	13896	13739	13354
2017年	13276	13296	13092	12846	12614	12901	14255	14875	15722	17159	17088	16999
2018年	16832	16628	16796	16695								
過去10年平均	14754	14803	14490	14800	14744	14768	14586	14570	14813	15101	15024	14835

インペリアルバレー クレイングラス作付面積（2018年4月中旬時点）単位：エーカー

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

日本および韓国からのストロー需要は引き続き堅調に推移しています。ライグラスストローについてはすべて成約済で新穀まで追加買いは難しい状況ですが、フェスクストローについてはまだ一部在庫はあるようです。堅調な需要が続き、産地在庫はほぼ成約済みであることから、今後、産地価格は大きな変動がないまま新穀まで推移していくと予想されています。

豪州産オーツハイ

オーツハイへの需要は日本のみならず中国および韓国から引き続き堅調で、各サブライヤーとも出荷は順調に進んでいるようです。現在のところ、中国および韓国からの需要は価格が安価な中～低級品に集中しており、日本向けとは棲み分けができています。

産地では早くも18年産の作付けがスタートしています。東豪州および南豪州では17年産は上級品が多く収穫され、生産農家の採算も比較的良好であったことから作

付面積は前年並みとなる見通しです。西豪州については、収穫期の降雨の影響により17年産の相場が低迷したことから、大麦、小麦、菜種など、他の作物への転作も目立ち、18年産の作付面積にやや減少するものと予想されています。

昨年は一時的に生育期に早魃に見舞われましたが、今年については現在のところ、異常気象の兆候も出ておらず、例年並みの降雨が見込まれることから、時期尚早ではあるものの、生産量についても例年並みになるものと予想されています。

17年産の現行価格については、為替を除き大きな変動要因もないことから安定的な推移を見せています。

以 上